客員研究員の まちづくり 奮闘記

地域づくりは地域探し

～合併を契機に山奥組を発足～

井上　謙二
（西予市）

私は、愛媛県まちづくり総合センターが設立された2年後の昭和63年4月から2年間在籍し、数号の舞たうん編集を担当しました。野村町に復帰後、茅葺き民家「土居家」修復、第4次野村町総合計画、地域づくり団体「のむら維新塾・女性会議」の主催など、地域に直結した事業に携われたのも、センターでの経験に寄るところが大きかったように思います。私は、昭和の合併を経て周辺地域や山村集落が衰退する様を地域の中で体験し、再び平成の合併に直面する事態となりました。

「地域づくり」には様々な視点があります。私の場合は「地域社会のあり方と住民の関わり（地域活動）」について、いわば「地域コミュニティの活性化」を一つの切り口と考えました。地域の活力や文化は与えられるのでなく地域によって創られる。人を信じ、語り、汗をかくことから、農山村に夢と誇りを取り戻そう。平成の合併にあたり、こんな会話のできるメンバーに恵まれ、西予市誕生の2ヵ月後、平成16年6月6日に『むらの新資源研究会・山奥組』を発足しました。

山奥組は、多分に理想主義で経済面に弱い？のが欠点ですが、会員は松山・東京など幅広く、「十文田の森」の里山保全活動、巨樹調査と「野村の巨樹91選」の発行、惣川地区の空き家を活用した農村体験交流施設「小松山荘」、渓筋地区の清流米と地域産品による「ふるさと宅配事業」、伝統文化や技術を継承する竹工芸講習・ふるさとカレンダーなど、多少なりとも夢が形になりつつあります。最近では、地域の若い市職員たちも多忙な中で部会事務局を引き受けるなど、活動に参画し始めました。

地域づくりは地域探しから…。人も含めた地域資源の再考と確認、それを活用し発展させる作業が必要です。「共に学び、語り、実践する」を基本に、山奥組の地域づくり実験（未だ「実践」には至らず…）が続きそうです。それぞれに輝く地域であって欲しい。皆様のご活躍と、山奥組への温かいご支援をお願い申し上げ、私の奮闘記といたします。

ふるさとの巨樹調査